

開催館名または実施者名 明石市立文化博物館

事業名 ミュージアムプレイヤーとつくる海辺の暮らしを知るキット

実施期間：2025年4月20日（日）～2026年3月31日（火）



【事業の内容・目的】

- 2024年度より「MUSEUMPLAYER 養成講座」を開催し、高校生から高齢者まで約30名の方に全6回の博物館に関する講座を受講いただいた。修了後のMUSEUMPLAYER（以下、MP）には、ボランティアに博物館活動を担っていただく予定である。2025年度、MPの活動がより地域的な内容となるよう、MPとともに「海辺の暮らしを知る」キットの制作を行う。
- また、当館既存のボランティア50名も同じ活動を展開していけるよう、研修を行う。こうした活動を通じて、明石の海や漁法などについて理解を深め、それを人に伝えていくことでMP・ボランティアだけの学びではなく、地域全体に広がる学びとしていきたい。
- 将来的には、当館の常設展示のリニューアルへと反映させていく。

活動の様子

1. MP 月例ミーティング

【開催日時】

2025年4月20日・5月15日・5月17日・6月21日・7月26日・8月23日・9月21日・10月25日・11月1日・12月6日・2026年1月24日・2月28日・3月14日 14:00～15:30

その他の活動:

6月26日: ワークショップについての研修

7月20日: ミュージアムオープンディサポート

10月12日: ぶんぱくお城フェスタにてワークショップ

10月16日: 多賀町立博物館アケボノゾウ見学

12月7日: クリスマスマーケットにてワークショップ

【開催場所】

明石市立文化博物館 会議室他

【参加者数】

延べ136人

【活動内容・目的】

- MPの主体的な活動を支援するために実施する。
 - MP同士の相互交流・情報交換の場を定期的に持ち、「キットづくり」の活動に、より多くの人の参加が見込める。
- 学芸員とMPのつながりを強化することで、博物館にある「海の学び」に関する資源（資料や情報）などを知る機会になり得る。



4月20日 グループわけ
ぶんぱくでやってみたいことを整理してグループ分け



5月15日 スタートアップの打ち合わせ
4月の内容を引き継ぎつつ、講師と1年間の講座について検討
5月17日 ワークショップの企画
誰のために何をするのか検討する



6月21日 ワークショップの企画
企画で取り扱うテーマ、展示、資料について探求する



7月26日 ワークショップの企画
お城フェスタで実施するワークショップで伝えたいことを明確にしてい



8月23日 ワークショップの企画
お城フェスタで実施するワークショップの材料などを具体的に検討する



9月21日 ワークショップの試行
お城フェスタで実施するワークショップの試行をする



10月25日 ワークショップの振り返り
お城フェスタで実施したワークショップについて振り返り、改善案を考える



11月1日 ワークショップの改善
お城フェスタをふまえて、ワークショップを改善する



12月6日 ワークショップの準備
翌日のクリスマスマーケットで実施するワークショップの準備



1月24日 ワークショップの振り返り・報告展の企画
1年間の活動を振り返り、3月の活動報告展について、検討する



2月28日 ふりかえり・活動報告展の準備
翌日から実施する活動報告展のパネルを作成したり、準備をした





3月14日 活動報告展開連ワークショップ

MPの活動について詳しく知っていただくための一般向けのイベントを実施する

1. ミュージアムグッズの紹介

明石市立天文科学館 井上毅館長

伊丹市昆虫館 角正美雪学芸員

明石市立文化博物館 井上直子

明石市立文化博物館 吉本由梨香学芸員

佐藤優香

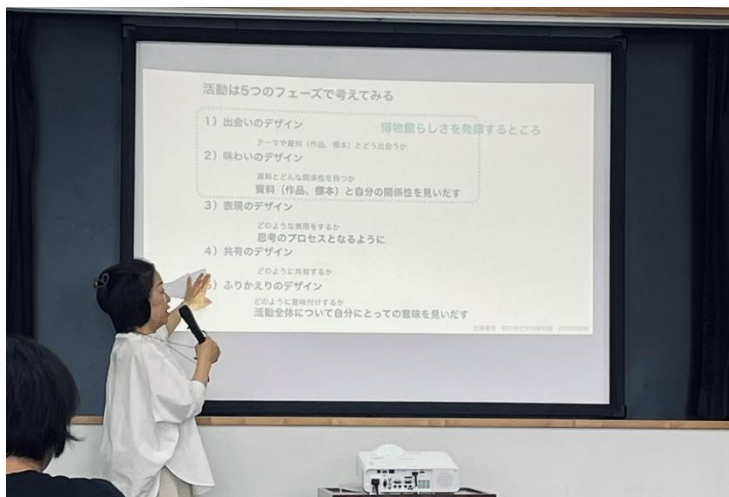
伊丹市昆虫館 坂本昇館長

2. 常設展示「明石の漁業」の解説

3. ミュージアムグッズ企画ワークショップ

4. グッズ発表&好評

5. MUSEUM PLAYER! 活動紹介



6月26日：ワークショップについての研修

ワークショップの考え方について、講義形式の研修を実施した



7月20日：ミュージアムオープンディサポート
上映会や対話型鑑賞のサポートや、机やいすなど什器の移動など運営を補助する



10月12日：ぶんぱくお城フェスタにてワークショップ
アカシノウチームは、明石の海から見つかったアケボノゾウについてのワークショップを実施した



10月12日：ぶんぱくお城フェスタにてワークショップ
昔のあそびチームは、明石藩の黒田家ゆかりの資料や蓄音機などを体験するワークショップを実施した



10月12日：ぶんぱくお城フェスタにてワークショップ
明石城クエストチームは、明石城まつりの会場とぶんぱくをつなぐワークショップを実施した



10月16日：多賀町立博物館アケボノソウ見学
ボランティアとアカシノウチームで多賀町立博物館にて、アケボノソウについて理解を深めた
学芸員よりアケボノソウについてしっかりと解説をしていただいた





12月7日：クリスマスマーケットにてワークショップ
アカシソウチーム、昔のあそびチームはお城フェスタのワークショップの改善版を行った
明石城クエストチームは館内を回遊するラリーを実施した

1年間を通して、博物館資料、学芸員を活用したワークショップのあり方について、実践的に学んでいただいた。グループごとに企画を組み立て、試行を繰り返し、実践を通して、それぞれのチームごとに結束力が生まれたものと考えている。

MPの主体性に委ねた活動であり、昔のあそび、人と博物館をつなぐ、アカシソウをテーマに活動を行ってきたため、直接的に「海の学び」につながったわけではない。しかし、「アカシソウ」について、深く学ぶために多賀町立博物館に見学にいき、海から引き揚げられた「骨格標本」について理解を深めた。また資料を専門に扱う学芸員とのコミュニケーションが生まれたことで、資料に描かれた「漂標」など、海に関わる情報を得ることができた。

直接的に「海の学び」ではないかも知れないが、来年度以降、「海の学び」を深めたり、広げたりしていく際の共通した素地が育まれたものとする。例えば、ワークショップとは何か、博物館のコミュニケーションとはどのようなものか、資料の背後にはどのような情報があるのかなどを、活動に関わるすべての人々が共通理解を持っておくことが、余計な混乱や摩擦を減らすものとなる。

【参加者の声】

- 漁業にまつわるまつりや祈りなどを知り、海と人々のつながりを感じることができました。
- アカシソウが西八木海岸で見つかったこと、化石が（漁師の）網にひっかかってとれた。
- 魚のイラストから何の魚か？をみんなで考えたり、あてたりするのは大人でも楽しめました。子供達にも魚の種類を知ることによって海の大切さを伝えていけると思いました。

2. MP 養成講座 for ボランティア

【開催日時】

2025 年 10 月 19 日・11 月 2 日・12 月 21 日・2026 年 1 月 18 日・2 月 15 日・3 月 14 日 10:00 ~ 12:00

【開催場所】

明石市立文化博物館 会議室他

【参加者数】

定員 46 人

【活動内容・目的】

- 明石の歴史や文化に関わりのある活動へと意識を向けていただく。
- 講座のなかで「明石の海と漁業」に関する常設展示を利用することで、改めて、「海の学び」を深めていただく。
- 常設展示リニューアルに向けて、必要な改善事項を洗い出し、リニューアル後、一般来館者の「海の学び」がよりわかりやすくなる。



1. 10月19日：ガイダンスー博物館施設案内と保存環境についてー
ボランティアに対して、博物館施設や学芸員の紹介を行った
また、文化財害虫を予防するIPMの考え方について溝邊悠介氏より講義を行った



2. 博物館資料と展示の背景ー展示をする・される・みるー
展示をする学芸員の立場、展示をされる資料の持ち主の立場、展示をみる鑑賞者の立場、それぞれの立場から展示の理解を深めるワークショップを佐藤優香氏が実施した



3. 博物館の資料調査—資料を調べ記録する—

博物館資料の調査について、モノを見ることでわかることはどのようなことか、材質や材木の選び方などに着目するなど資料調査の方法について溝邊悠介氏に教えていただいた



4. 博物館の情報伝達—さまざまな方に伝える—

博物館の情報伝達のあり方について、外国籍の方やしょうがい者の方などにも、わかりやすく伝える方法として、やさしい日本語を高尾戸美氏・佐藤優香氏に学んだ



5. 博物館の学びとコミュニケーション—思考のための問い作り—

博物館でのコミュニケーションとはいかなるものか、対話を通してモノへの理解を深めていく手法について、大野照文氏・佐藤優香氏に学んだ



6. 今後にむけて

今後のMP とボランティアのあり方について、参加者と議論を深めた
2026 年度 MP 受講生については、ボランティアグループ（新規参入者の希望のあったグループ）と
MP 活動の両方に加入できるようにしてはどうかと提案があった

当館のボランティアグループは、解説、十二単・鎧の着付け、さをり織体験、広報物の発送、ワークショップ、むかしのくらし展のサポートのグループに分かれて活動をしており、それぞれのグループ間での交流はすくない。その横ぐしを通し、それぞれのグループで「海の学び」を意識づけて活動ができたかと企図したが、参加者は想像以上に少なかった。

要因として、ボランティアとしての活動歴が長い方が多く、本事業に対する博物館側の説明が不十分であったことが挙げられる。

とはいえ、2027 年度には MP 養成講座の修了生が、ボランティアグループにも MP 活動にも加わるようになる。その土壌を形成することにはつながったものとする。

また、常設展の明石の海から見つかった「アカシゾウ」や漁業に関連する民俗資料の調査など、講座を通じて明石の海について意識していただくきっかけは与えられたものと思う。

【参加者の声】

- 漁師の使用する用具のスケッチは良かった。
- 二枚貝についてもっと知りたいと思った
- 観察することと想像することは大切ということ

3. 海辺のくらしを知るキットの制作

【開催日時】

2025年8月28日・9月5日（→台風のため9月18日に延期）・
9月17日・10月24日・11月1日 10:00～11:30

【開催場所】

明石市岩屋神社周辺・明石浦漁港・明石市立文化博物館・
神戸須磨シーワールド

【参加者数】

29人

【活動内容・目的】

- フィールドと博物館での活動をととして、MPが海の学びを深めるとともに学びを人に伝えたい気持ちの醸成を図る。
- 人に伝えるためのキットを作成し、活動を知識として落とし込む。
- アウトリーチ活動でキットを使用していくことで、その参加者にも海の学びを広げる。



8月28日：金井さんとめぐる漁師町

明石浦に生まれ育ち、当地で造船業を営む金井清氏に明石の海辺の町がどのように移り変わってきたのか、
写真や地図を使って説明していただいた

溝邊悠介氏・佐藤優香氏には、調査指導・キットの監修で同行いただいた



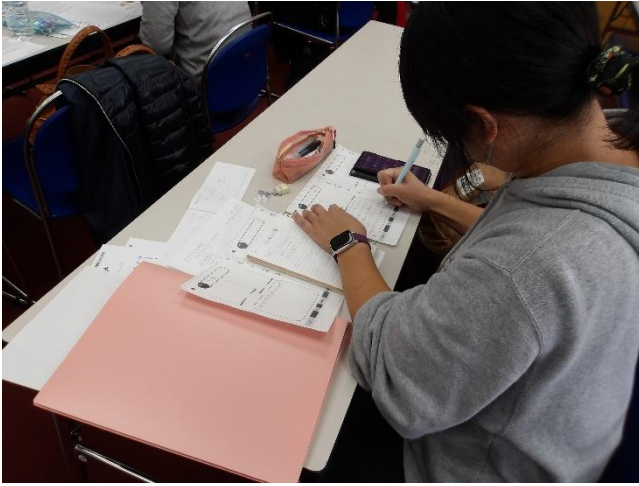
9月18日：戎本さんに紹介いただく明石浦漁港
明石浦漁業協同組合の組合長戎本裕明氏に明石浦の漁業について教えていただいたほか、
実際のセリの様子も見学させていただいた
キットの監修として佐藤優香氏が同行した



9月17日：戸田さんにきく漁師の生活
明石浦で長いこと漁師をされてきた戸田修一氏に、博物館に収蔵する漁具の使い方について教えていただいた
当日は、キット監修として佐藤優香氏が立ち合ったほか、戸田氏のご家族も加わっていただき、
漁師の生活についてご説明を加えてくださった



10月24日：神戸須磨シーワールド
漁港や漁師から聞いた魚たちが海のなかでどのように暮らしているのかを知るため、
神戸須磨シーワールドの見学を実施した
キット監修のため、佐藤優香氏が立ち合った



11月1日：まとめの回

これまでの調査でわかったことや印象に残ったことを取材ノートにまとめていく
この取材ノートをもとに、佐藤優香氏と学芸員らでキット制作を行った

明石の「海辺の暮らしを知るキット」を制作するために、MP とフィールドワークを行った。船の発動機を扱う会社を経営される金井清氏に明石の海辺の町の様子を教えていただいた。台風による延期があったものの、明石浦漁業協同組合では組合長より解説いただき、セリを見学した。博物館の漁業に関わる資料を使いながら戸田修一さんに漁業の移り変わりも教えていただいた。神戸須磨シーワールドでは、イカナゴが砂に潜る様子など、話を聞いただけでは理解できない、魚の習性について見学をした。

これらの活動を通して、さまざまな方のお話や見たり、聞いたりしたことが有機的につながりあい、それぞれの参加者のなかに立体的に海辺の暮らしを思い描くことができたように思う。また、漁業協同組合の組合長や戸田修一さんのお話から、海水温上昇などにより海の様子が徐々に変化してきていることが伺われ、環境問題についても思いをはせる機会になった。

来年度以降、アウトリーチとしてキットをもってさまざまな場所でのワークショップをしようと思うが、その際にこれらのフィールドワークに関わった MP が活躍してくれるものと考えられる

【参加者の声】

- 船について全く意識したことがなかったので、町あるきによって身近に感じられた。
- 昔の実際に使われた道具を見てびっくりした。本物の漁師さんの話に感動した。
- 昔の豊かな海をとりもどすため、海底耕耘などしていると聞いてとても大変な努力をしているのだと思いました。

4. 活動報告会と活動紹介ブースの設置

【開催日時】

①THE MUSEUM PLAYER!展

－ “AKASEA TOOL-海のある暮らし” 制作の記録－

2026年3月1日（日）～3月22日（日） 9：30 ～ 17：30

②ワークショップ「ぶんぱくミュージアムグッズを企画しよう」

2026年3月14日（土）14：00 ～ 16：30

【開催場所】

明石市立文化博物館

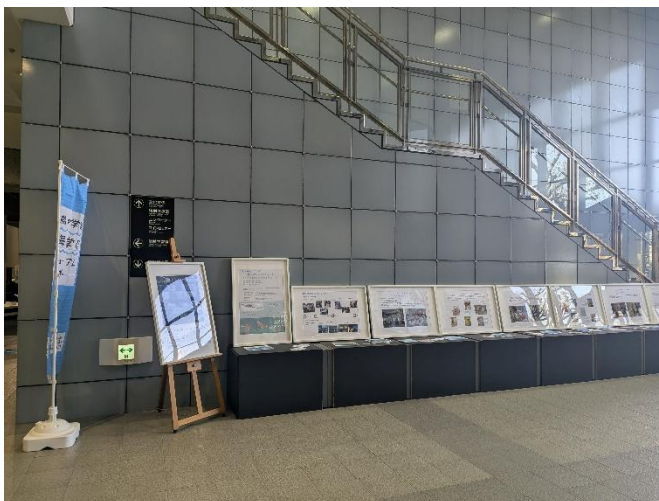
【参加者数】

①2,139人

②6人（MP は別紙にて報告）

【活動内容・目的】

- 1年間の活動の報告会を実施することで、自分たちの活動を客観的に振り返るとともに、次の活動へとつなげていく。
- 活動報告とパネルやキットの紹介を通じて、一般来館者に対して「海の学び」への理解と、次年度 MP 養成講座の参加への誘導を行う。





①THE MUSEUM PLAYER!展
— “AKASEA TOOL-海のある暮らし” 制作の記録—

MPの活動を振り返るとともに、本事業で制作した“AKASEA TOOLー海のあるくらしー”がどのようにつくられたのかを紹介するパネル展を実施した。

“AKASEA TOOLー海のあるくらしー”は、漁師さんになり明石の海の魚をさまざまな漁法でとるカードゲームである。付属品として、明石の海のマップやぬいぐるみがある。本パネル展では、TOOL そのものは紛失や持ち帰りの危険があったため、TOOLの魚のイラストをパネルに切り、裏面に魚の名前を貼りつけ設置した。また、さまざまな漁業についてもパネルにした。たまたま通りかかった子どもたちは、魚のパネルを裏返し、名前を確認したり、漁業のパネルと魚のパネルのマッチングを試みたりしていた。

また、大人の方たちはイカナゴが砂に潜るイラストを見て、「夏眠するんだよな〜」などと自分が知っている知識と結びつけている様子うかがえた。

MPの活動紹介や、養成講座への誘導につながったかどうかは効果を図りかねるが、たまたま博物館を訪れた方々に、明石の海やそこで行われている漁業について理解を深めていただくことにはつながったかと思う。

また来年度以降、TOOLを使った活動を展開していく際に、来館者の様子が参考となった。





3月14日 活動報告展関連ワークショップ

MPの活動について詳しく知っていただくための一般向けのイベントを実施

- | | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 1. ミュージアムグッズの紹介 | 明石市立天文科学館 井上毅館長、
伊丹市昆虫館 角正美雪学芸員、 |
| 2. 常設展示「明石の漁業」の解説 | 明石市立文化博物館 井上直子 |
| 3. ミュージアムグッズ企画ワークショップ | 明石市立文化博物館 吉本由梨香学芸員 |
| 4. グッズ発表&好評 | 佐藤優香 |
| 5. MUSEUM PLAYER! 活動紹介 | 伊丹市昆虫館 坂本昇館長 |

“AKASEA TOOLー海のあるくらしー”の魚・漁業などのイラストを用いて、ミュージアムグッズを企画するというワークショップを一般の参加者も募って実施した。告知期間の短さもあり、一般参加者は6名となってしまったが、MPとともにミュージアムグッズの企画に取り組んだ。

海の生き物たちが散りばめられた雨傘、クリアファイルといったものから、どこに生息する生き物なのかを考えながら貼るシールブックといったグッズの提案もあった。また、明石の魚を取り扱う「魚の棚商店街」と連携したグッズの提案など、魚や漁業だけにとどまらない地域全体を巻き込んだグッズも考えていただいた。

グッズの企画を通して、タコツボからタコが出てくるようなキーホルダーケースにしようなどと、グッズの企画を通して購入者にいかに「海の学び」を届けることができるか、参加者は知らず知らずのうちに考えられたように思う。

【参加者の声】

- 明石にとって海が大切な存在だとより感じました。グッズを考えることで、より海について興味がでてきました
- 海をどのように学んでもらうのかを学ぶことができた
- 魚はこんなにもしゅるいがいると学びました

【事業全体のまとめ】

- ・本サポート事業の助成を得て、“明石の海”という特色ある市民参加型事業になった。
- ・広がりという点でも助成を得たことでアウトリーチキットを制作することができ、この1回限りにならない、広がりのある学びの種ができたものとする。
- ・クオリティ面でも、助成をいただいたことで「置いておくれ」でも子どもも大人も興味をもって近づき、触れることを通じて魚の名前（裏面に記載）がわかるキットができた。
- ・また、本事業の助成なしには報告書の作成は叶わなかった。このようにさまざまな方がかわる事業においては、記録とその蓄積がとても大切だと考える。組織が継続・発展していくための、土台になったものとする。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 明石浦漁業協同組合	取材協力
2.	
3.	
4.	
5.	

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 当館ホームページ	3月2日【3/22 まで開催】THE MUSEUM PLAYER!展
2. 当館 SNS	展覧会【THE MUSEUM PLAYER!展 “AKASEA TOOLー海のあるくらしー” 制作の記録】開催のお知らせ
3. 当館ホームページ	3月10日【募集開始】MUSEUM PLAYER!養成講座 2026
4.	
5.	

以上